

令和6年度 長野県こども・若者モニター事業

第1回こどもモニターアンケート調査結果 (子どもの家庭環境と学校生活について)

令和6年9月
長野県

調査の概要

1. 調査対象者

- 長野県内の小学5年生～高校3年生（もしくは同等年齢）
- モニター登録者数 小学生125名 中学生102名 高校生（もしくは同等年齢）61名 合計288名

2. 第1回アンケート調査期間

- 令和6年8月19日（月）～令和6年8月25日（日）

3. 調査方法

- 依頼方法：こどもモニター登録者のメールアドレスへ回答URLを送信
- 回収方法：県からの受託事業者（（一財）長野経済研究所）のアンケートシステムによるWEB回答

4. 回収結果

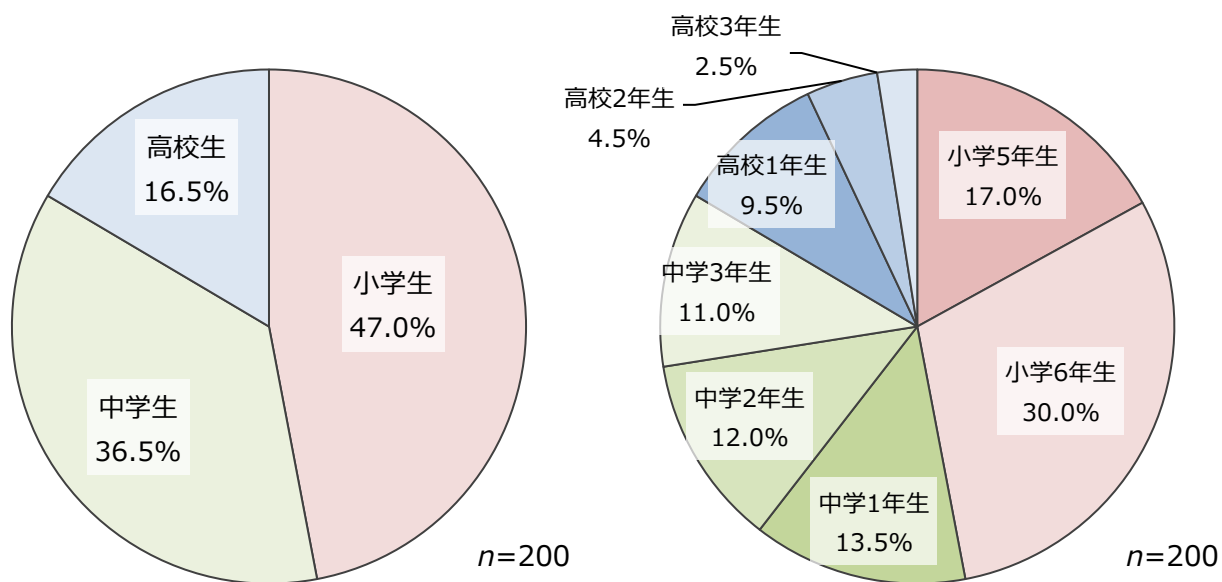
- 回答者数 200名（小学生94名 中学生73名 高校生33名）
- 回収率 69.4%

5. その他

- 四捨五入の関係により、構成比の合計が100%にならない箇所がある。

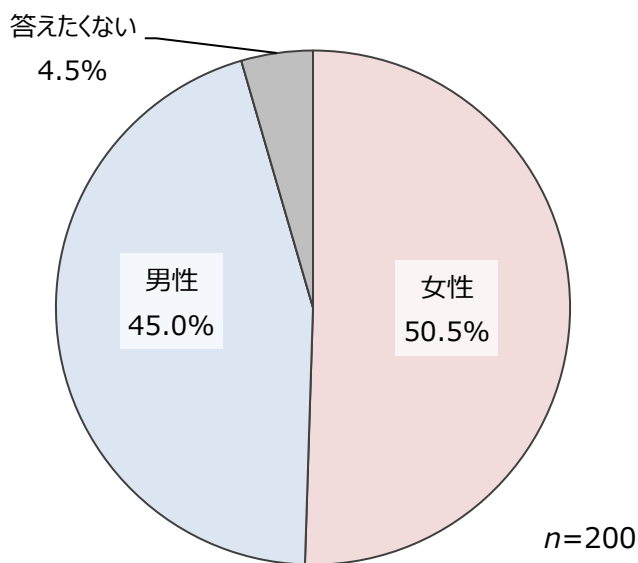
問3 モニターの年齢層

・回答があったモニター200名の生年月日をもとに年齢（学年）を集計した結果、小学生：94名（47.0%）、中学生：73名（36.5%）、高校生：33名（16.5%）という結果だった。



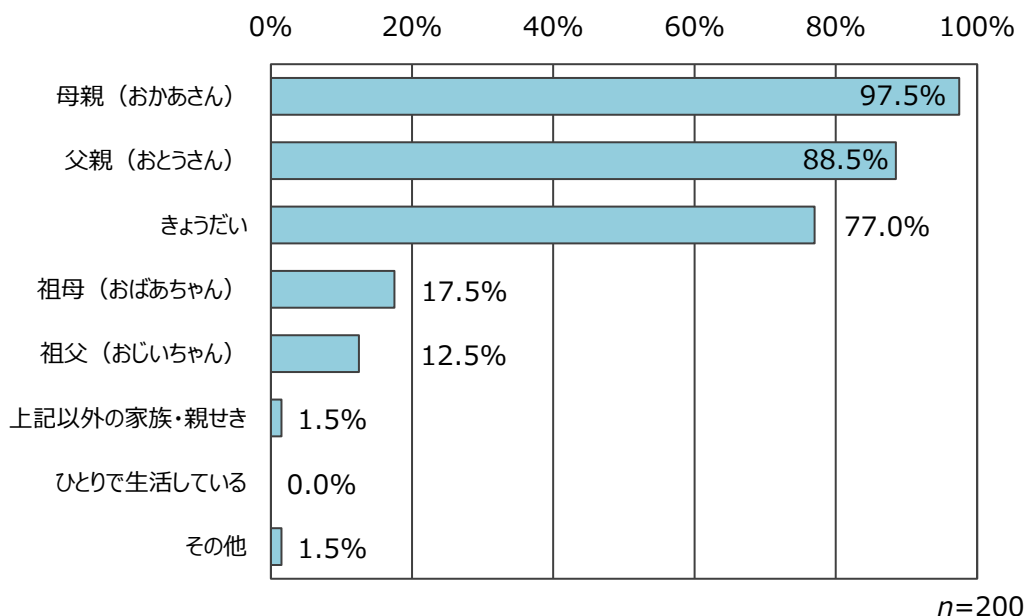
問4 モニターの性別

・モニターの性別は、女性：101名（50.5%）、男性：90名（45.0%）となり、大きな偏りなく回答を得ることができた。



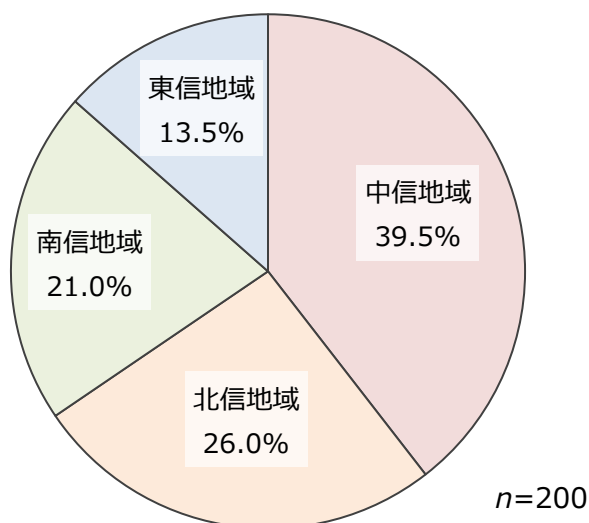
問5 いっしょに生活している人（複数回答）

- ほとんどのモニターが母親または父親、またはその両方と生活しているという結果だった。
- きょうだいと共に生活しているモニターは77.0%だった。国立社会保障・人口問題研究所「結婚と出産に関する全国調査」（21年）における結婚持続期間15～19年の夫婦の出生子ども数が「2人以上」は約7割だったことから、今回のモニターもほぼ同様の傾向にあると推測できる。

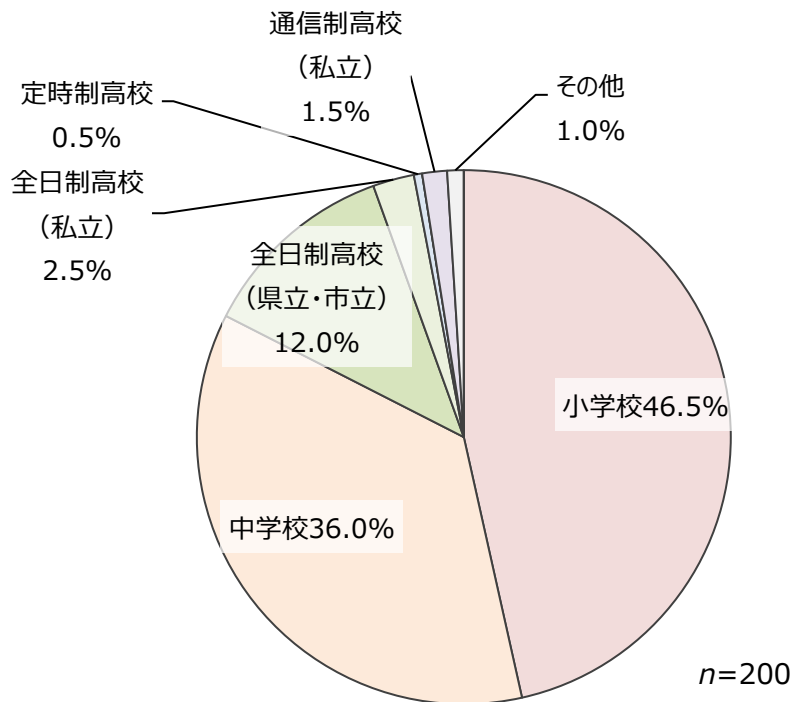


問6 モニターの居住地域

- 住んでいる地域は、中信地域（39.5%）が最も多く、東信地域（13.5%）が最も少なかった。

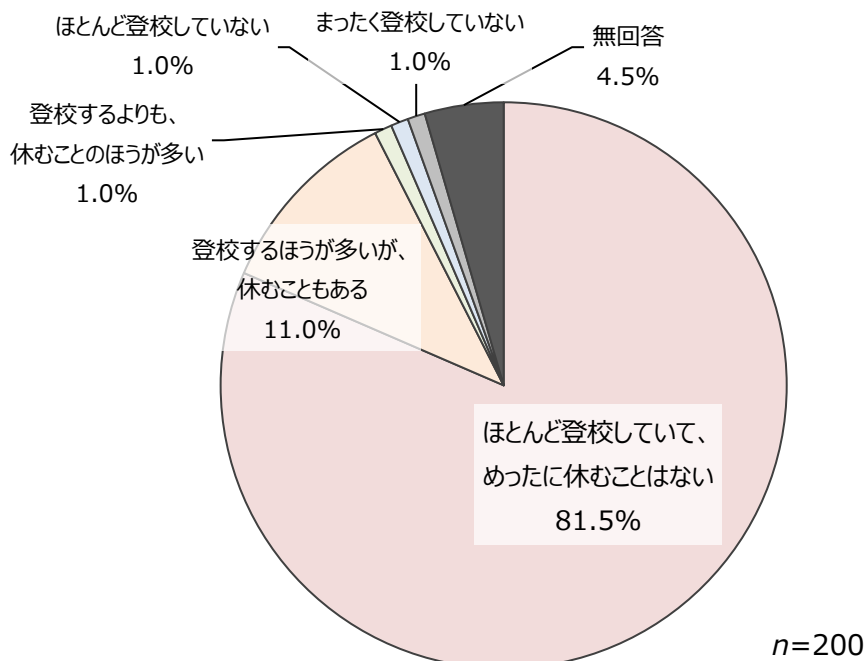


- 問7「いまの学校や仕事について」は、全てのモニターが学校に所属している結果となった。
- 問8「いま所属している学校」は、下表のとおりだった。「その他」は、年齢層（問3）で小学生及び中学生に分類されるモニター（各1名）が回答した。
- 全員が学校に通っているため、問9「いま、どのようなかたちで働いているか」は該当者なし。



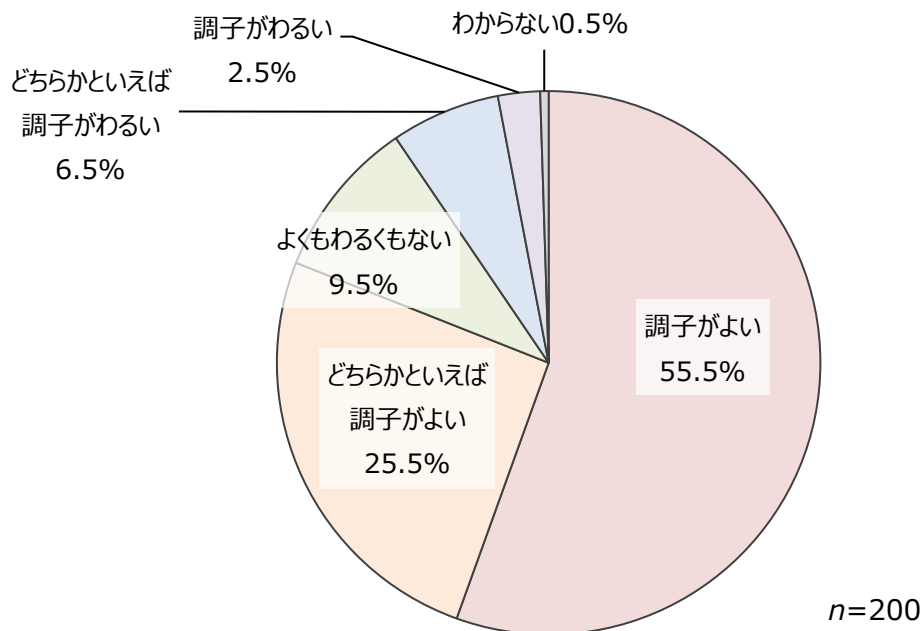
問10 登校の様子

- 「登校するほうが多い」と答えたモニターが9割以上を占めた。
- 「まったく登校していない」は、1.0%だった。



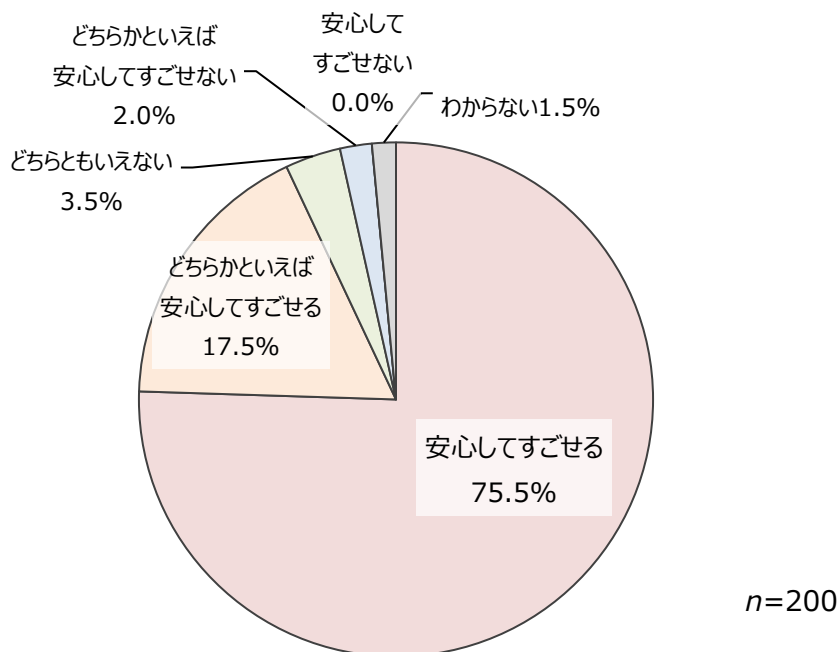
問11 いまの心と体の調子

- 半数以上が「調子がよい」と回答し、「どちらかといえば調子がよい」との合計は81.0%だった。
- 「調子がわるい」「どちらかといえば調子がわるい」は1割未満だった。



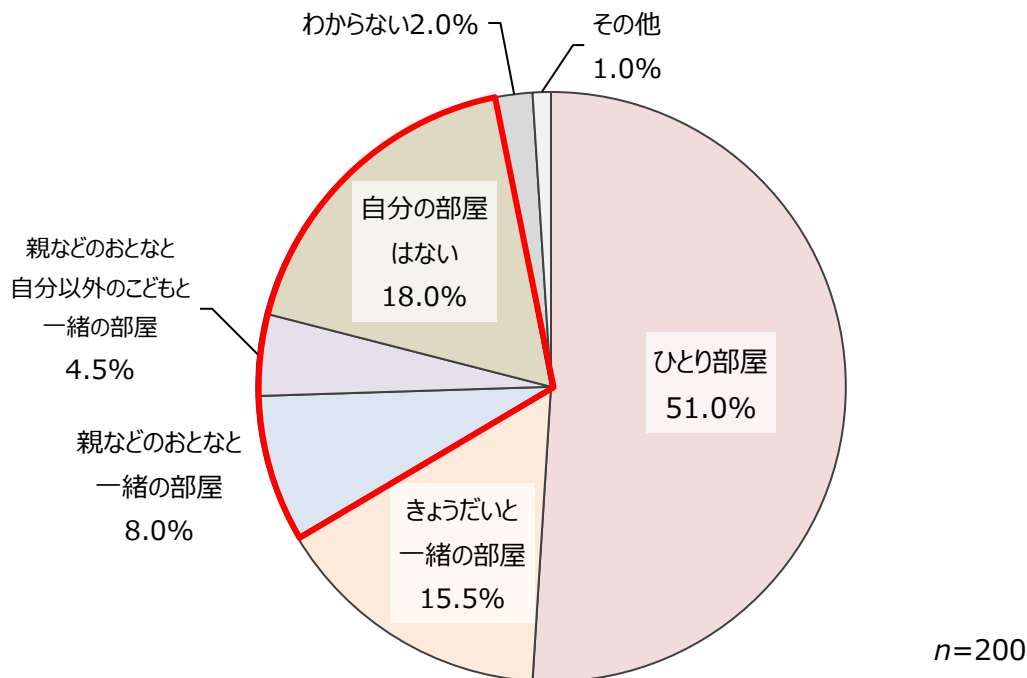
問12 いま生活している家（場所）では、安心してすごせるか

- 「安心してすごせる」と「どちらかといえば安心してすごせる」が9割を占めた。
- 「どちらかといえば安心してすごせない」と回答した4名の男女比は半々で、このうち2名は問11で「どちらかといえば調子がわるい」、1名は「調子がわるい」と回答した。



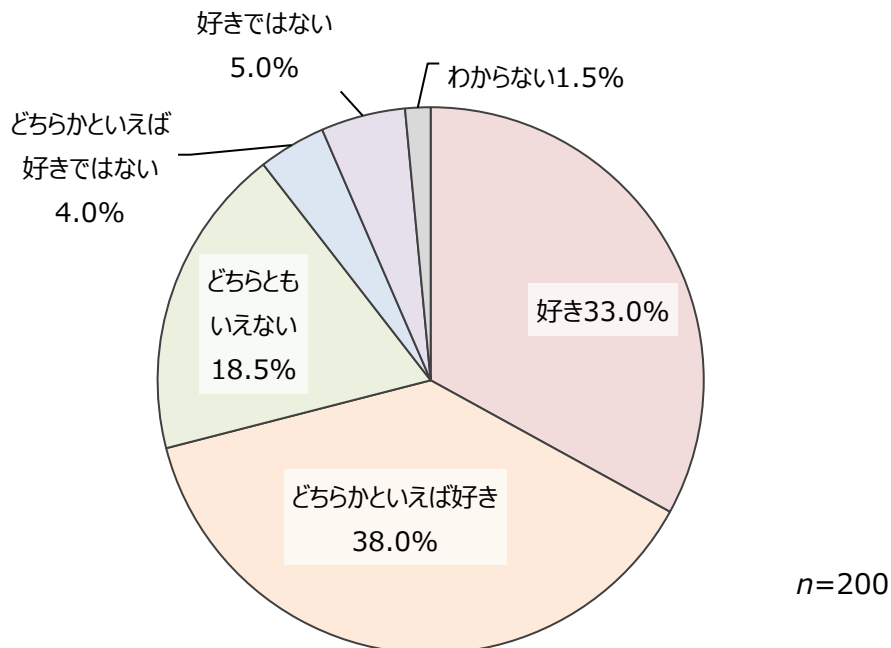
問13 いま生活している家（場所）で、自分の部屋はどのようになっているか

- ひとり部屋をもっているモニターが約半数という結果だった。
- 「こどもだけの部屋がない」モニター61名（赤枠部分）を年齢層で分類すると、小学生：35名（57.4%）、中学生：18名（29.5%）、高校生：8名（13.1%）だった。



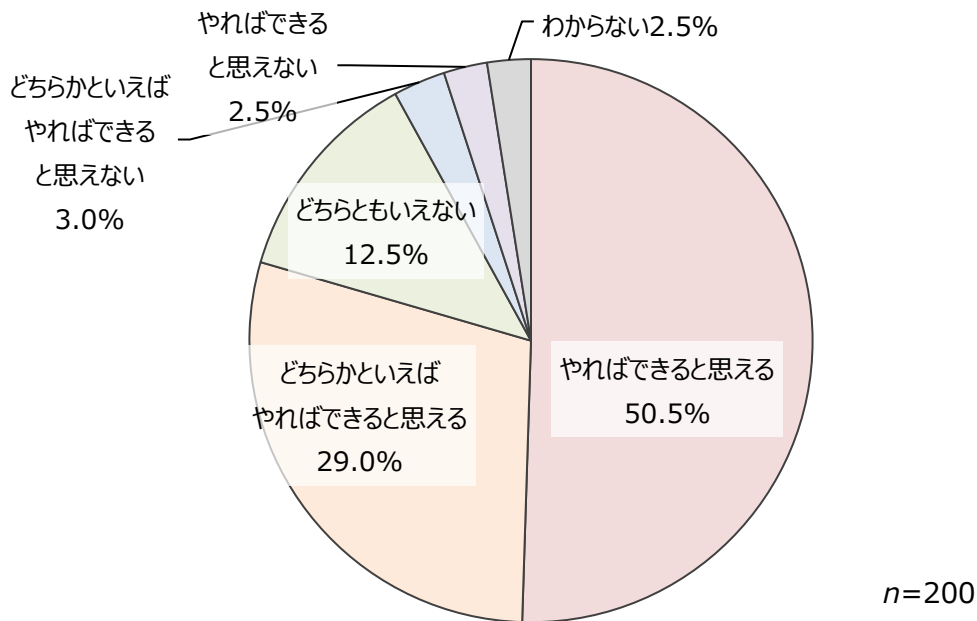
問14 自分について、「いまの自分のこと」は好きか

- 「好き」と「どちらかといえば好き」が7割を占めた。
- 「好きではない」と「どちらかといえば好きではない」モニター18名について、男女比は女性4名（22.2%）：男性14名（77.8%）だった。



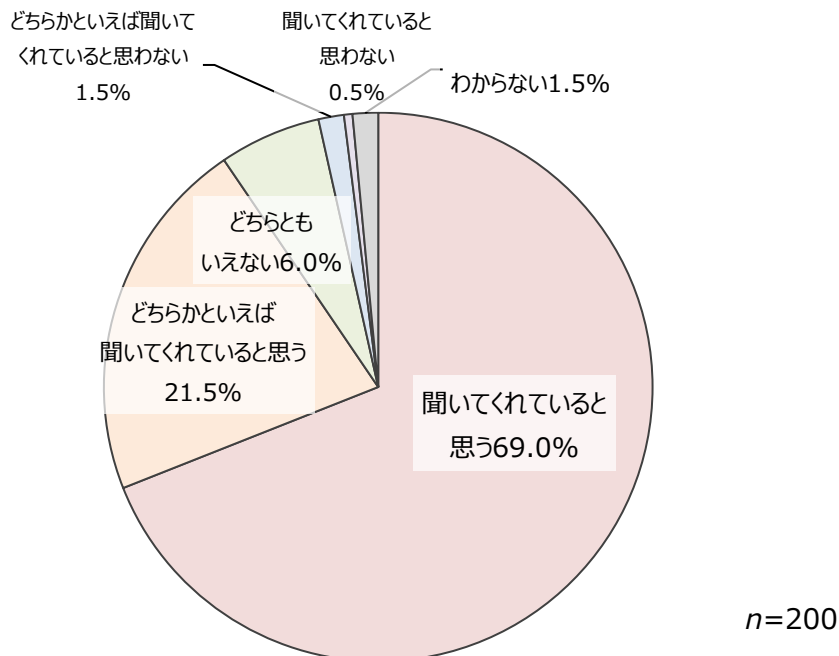
問15 自分について、「自分はやればできる」と思えるか

- 「やればできると思える」「どちらかといえばやればできると思える」が約8割を占めた。
- 年齢層別に「やればできると思える」または「どちらかといえばやればできると思える」と回答した割合をみると、小学生：80.9%、中学生：80.8%、高校生：72.7%と、高校生における割合が相対的に低い結果となった。



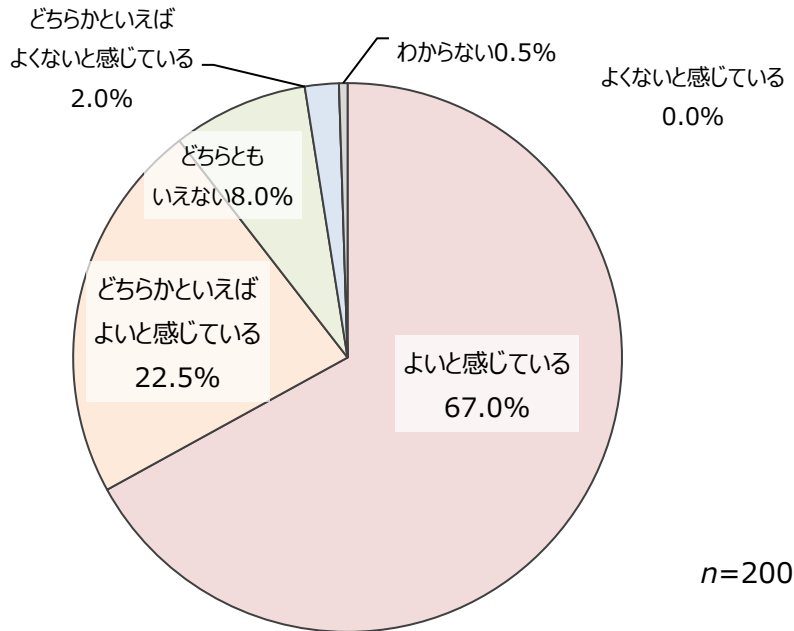
問16 いま生活している家（場所）で、おとな（親など）は、あなたの考えや思ったことを聞いてくれていると思うか

- 「聞いてくれていると思う」「どちらかといえば聞いてくれていると思う」が9割を占めた。
- 「どちらともいえない」～「聞いてくれていると思わない」と答えた16名は、問14で「いまの自分を（どちらかといえば）好き」と答えたのが5名（31.3%）と少なかった（全体は71.0%）。



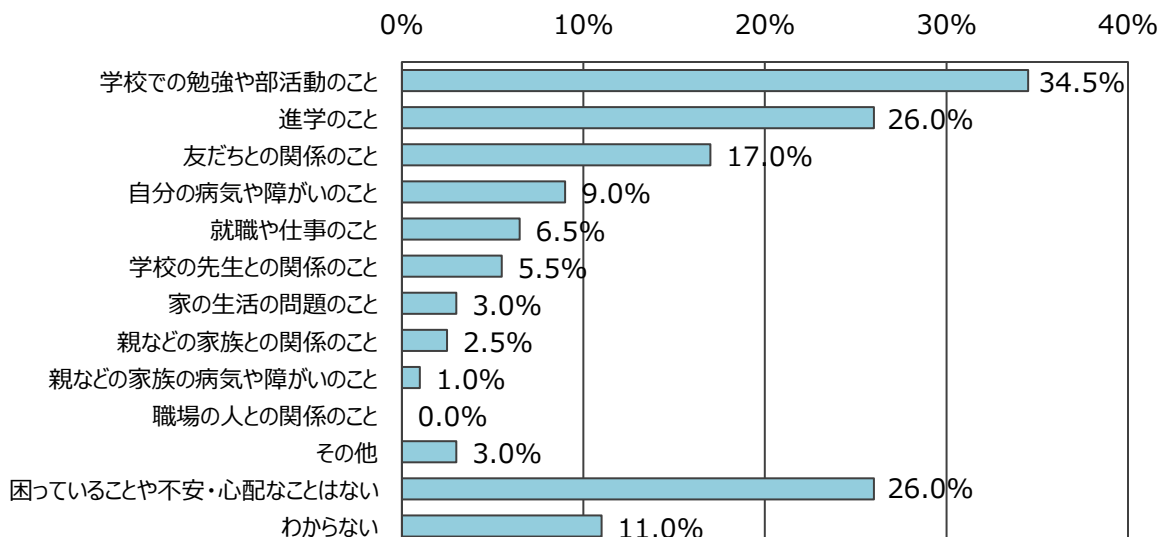
問17 いっしょに生活している人（家族など）とあなたの関係についてどう感じているか

- 「よいと感じている」「どちらかといえばよいと感じている」が約9割を占めた。また、「よくないと感じている」は0名だった。
- 「よいと感じている」と回答したうちの89.6%が、問16で「聞いてくれていると思う」と回答した。



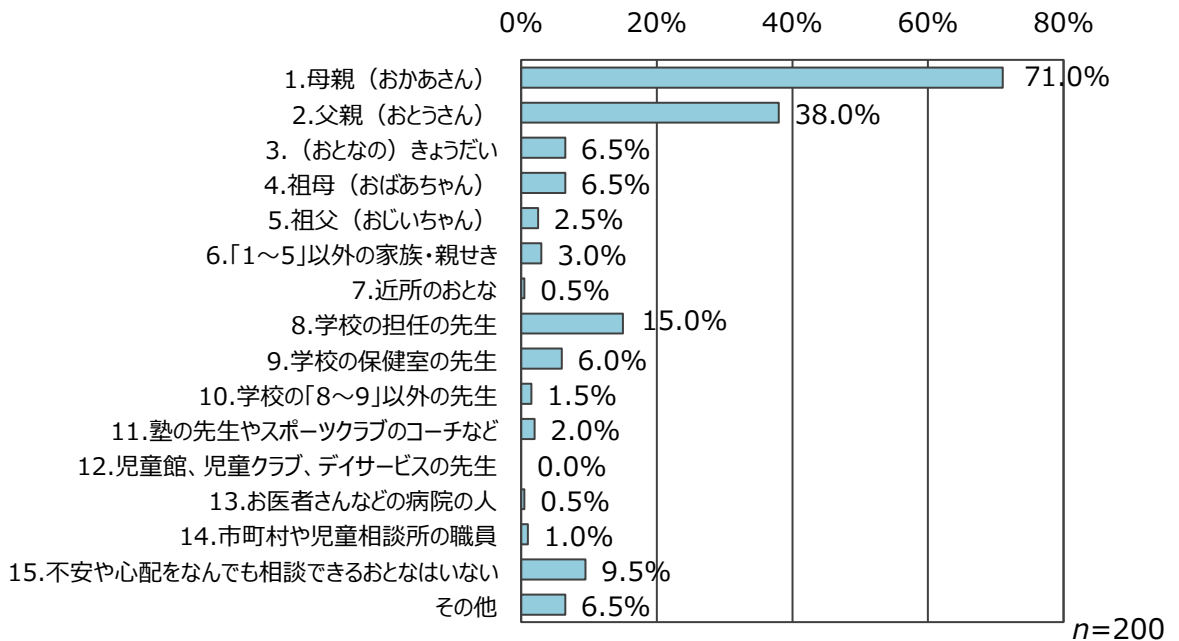
問18 いまの生活で困っていることや不安なこと、心配なこと（3つまで複数回答）

- 「学校での勉強や部活動のこと」が34.5%と最も多かったほか、学校での勉強や人間関係に関連した回答が上位を占めた。
- 「学校での勉強や部活動のこと」に悩みを抱える割合を年齢層別にみると、小学生：25.5%、中学生：43.8%、高校生：54.5%だった。また、「困っていることや不安・心配なことはない」割合を年齢層別にみると、小学生：36.2%、中学生：17.8%、高校生：15.2%だった。年齢層が上がるにつれて、学校関連を中心に悩みを抱える割合が高まっているといえる。
- 一方で「困っていることや不安・心配なことはない」は26.0%となった。



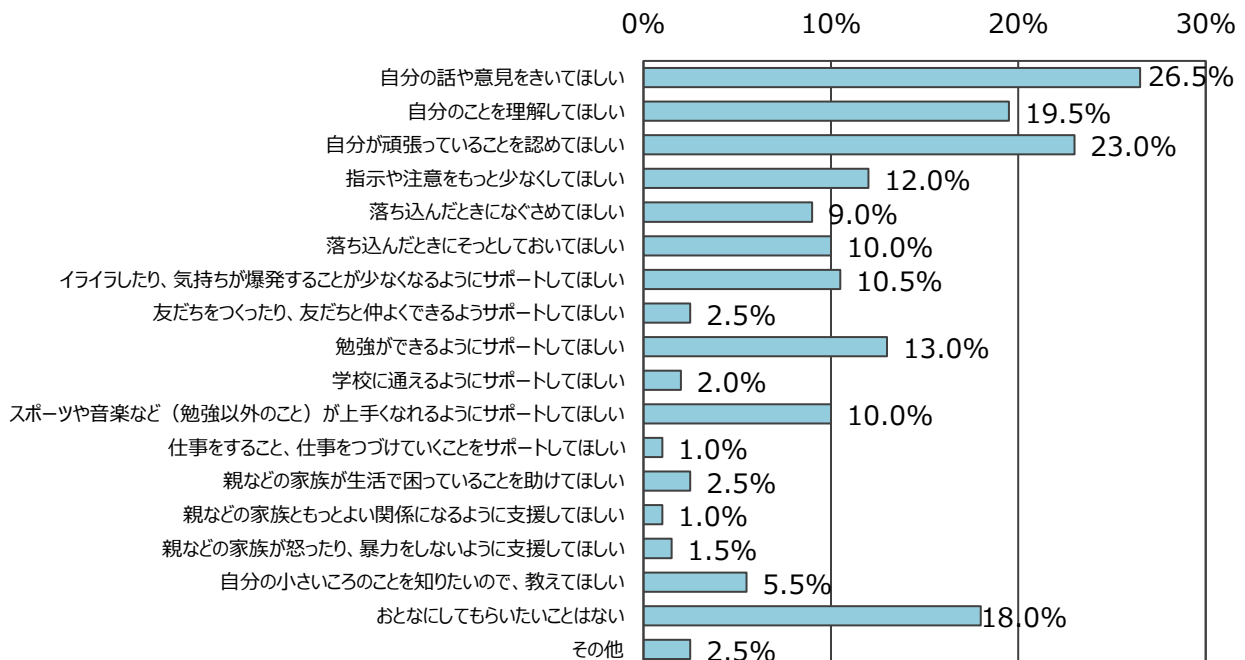
問19 いまの生活で困っていることや不安、心配をなんでも相談できるおとな（3つまで複数回答）

- 「母親」は71.0%と最も多かった一方、「父親」は38.0%だった。
- 「相談できるおとなはいない」と回答したモニターは9.5%だった。一方、当該モニターの間16における回答をみると、「聞いてくれていると思う」が57.9%、「どちらでもない」が36.8%と、悩みを一人で抱え込んでいるモニターが必ずしも多いとはいえない結果だった。



問20 親などのいっしょに生活しているおとなや、子どもや家族をサポートする仕事のおとなにしてほしい対応やサポート（3つまで複数回答）

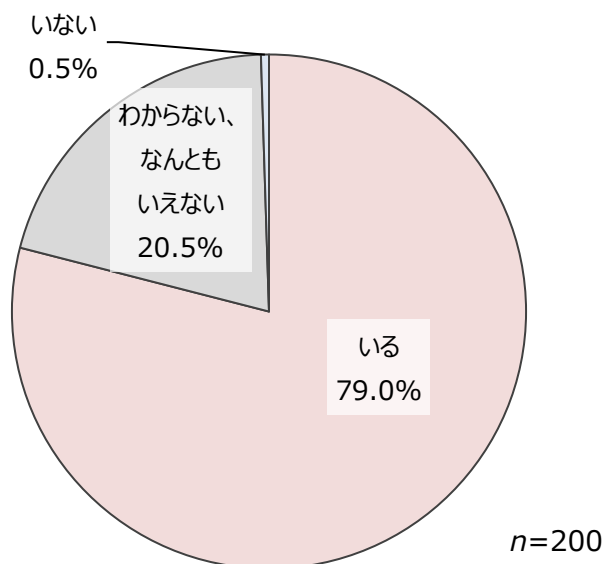
- 「自分の話や意見をきいてほしい」や「自分が頑張っていることを認めてほしい」などの、自己肯定感につながる回答が上位を占めた。
- 一方で「おとなにしてもらいたいことはない」は18.0%となった。



問21

自分がおとなになってもずっと自分のことを見守り、困ったときに助けてもらえると思うおとなはいるか

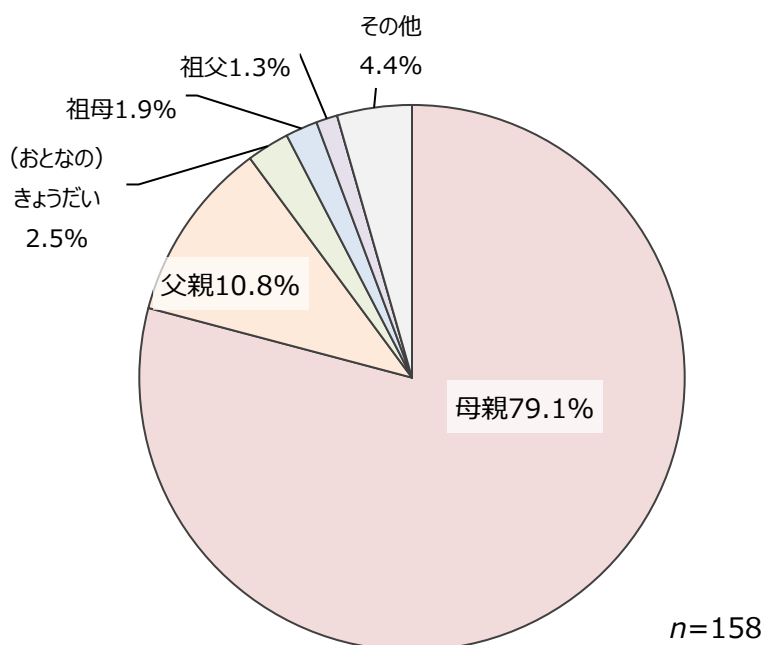
- 約8割が「いる」と回答した。
- 「わからない、なんともいえない」モニターの割合を年齢層別にみると、小学生：17.0%、中学生：17.8%、高校生：36.4%と、高校生において回答割合が大きかった。



問22

いちばん「ずっと自分のことを見守り、困ったときに助けてもらえる」と思う人
(問21で「いる」を選んだ人のみ回答)

- 「母親」が約8割を占めたほか、全体的には問19と同様の傾向がみられた。
- 「その他」には、「両親（1人は選べない）」や「友達」などの回答がみられた。



問23 長野県やまわりのおとなに伝えたいこと（自由記述）

・全体のうち、3割弱のモニターから回答があった。主な内容は下記のとおりであった。

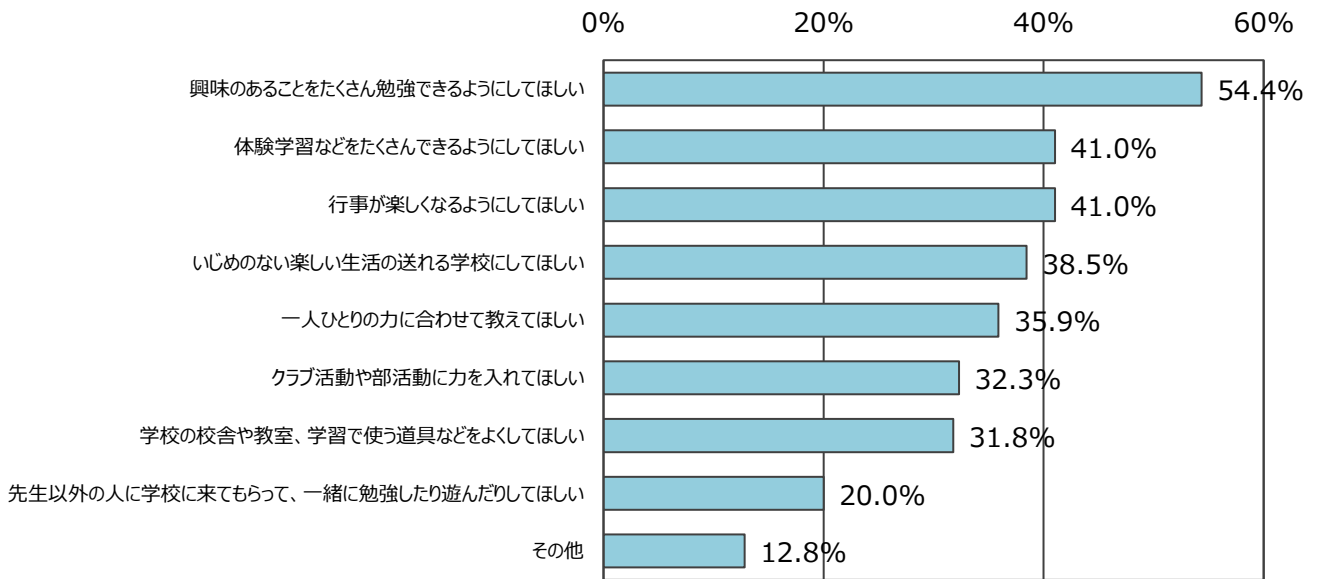
年齢層	内 容
小学生	<p>【学校に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みを長くしてほしい。 ・教室や体育館にクーラーをつけてほしい。 ・プールに屋根を付けてほしい。 ・部活をなくさないでほしい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館や公園をもっと増やしてほしい。 ・豊かな自然環境を守ってほしい。
中学生	<p>【学校に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育を、より生活で使えるものに変えてほしい。 ・オンライン教育を推進してほしい。 ・全ての中学校で給食の提供をしてほしい。 ・夏休みが短く、挑戦できることが限られてしまうので長くしてほしい。 ・学校で支給されるPCのスペックが低い。 ・担任と合わず、体調を崩した。毎年クラス替えをしてほしかった。 <p>【大人に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人が思っている以上に子供は繊細で、助けてほしいときがある。思春期だからとか、仕事が忙しいからという理由で放っておかないでほしい。何かしてくれなくても、ただ近くにいてほしい。 ・何でも大人がやるのではなく、こどもに任せて、できることを増やしてほしい。 <p>【県政に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの意見も社会に少しでも生かしてほしい。偉い人に会ってみたい。 ・こどもの意見を聞きたいのなら県が個々の学校に直接聞くなど、もっと大勢のこどもの意見を学校を通して聞いてほしい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとスポーツができる環境を整えてほしい。 ・こどもが楽しめる施設が少ない。
高校生	<p>【学校に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（治安や室温などの面で）安心して学べる自習室を増やしてほしい。 <p>【県政に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの意見を聞く機会をもっと増やしてほしい。市のこども議会に参加した際、本来の主張に大人の添削が入り、都合の良い意見を言うよう誘導された。子どもの意見を聞いてあげているという、大人のエゴが感じられて失望した。 ・若者の県外流出を防ぐよりも、若者が学びたい場所で学べるように支援することが必要だと思う。大切にしてもらった記憶のない故郷に戻ろうと考える若者はいない。 ・公共交通の本数や運賃を、学生も使いやすいように考えてほしい。 ・県外の長野県学生寮に、女子も入居できるようにしてほしい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辛いときに相談できるLINE相談の日数を増やしてほしい。 ・悩んでいることや話したいことを気軽に話せる人は誰にでも必要だと思う。 ・もっと生きやすく、自分を表現できて、個人が生き生きと暮らせる社会になってほしい。

問24 「今の生活に関するアンケート（長野県社会的養育に関する実態調査）」に回答した経験

・長野県で実施している社会的養育に関する実態調査（問3～問23と同様の内容）に回答したことのある割合は8%であった。 ※長野県社会的養育に関する実態調査との回答重複を防ぐために設問

問25 学校に望むこと（してほしいこと）（複数回答）

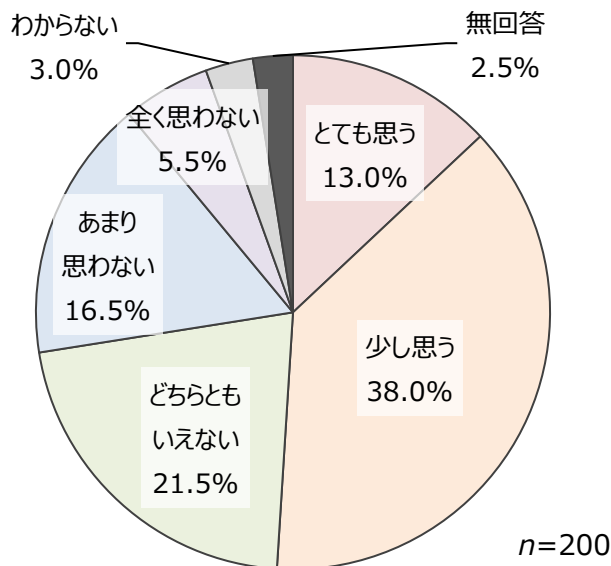
- 「興味のあることをたくさん勉強できるようにしてほしい」が5割を超えたほか、どの項目についても一定数の望む声があった。
- 「その他」には、「変な校則やルールを変えてほしい」などの意見があった。



n=195

問26 いま通っている学校では、問25で回答したことができていると思うか

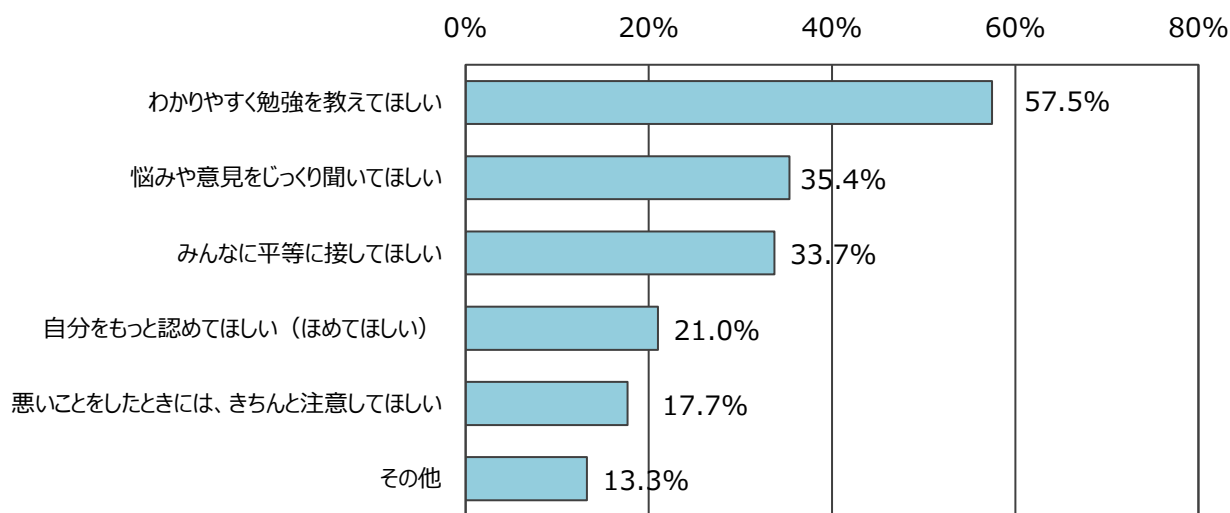
- 「とても思う」と「少し思う」の合計が半数を超える結果となった。
- 問25の各選択肢ごとの状況を尋ねる設問ではないものの、「一人ひとりの力に合わせて教えてほしい」を選択したモニターは、問26で「あまり思わない」または「全く思わない」を選択した割合が35.7%と比較的高かった。



n=200

問27 先生に望むこと（してほしいこと）（複数回答）

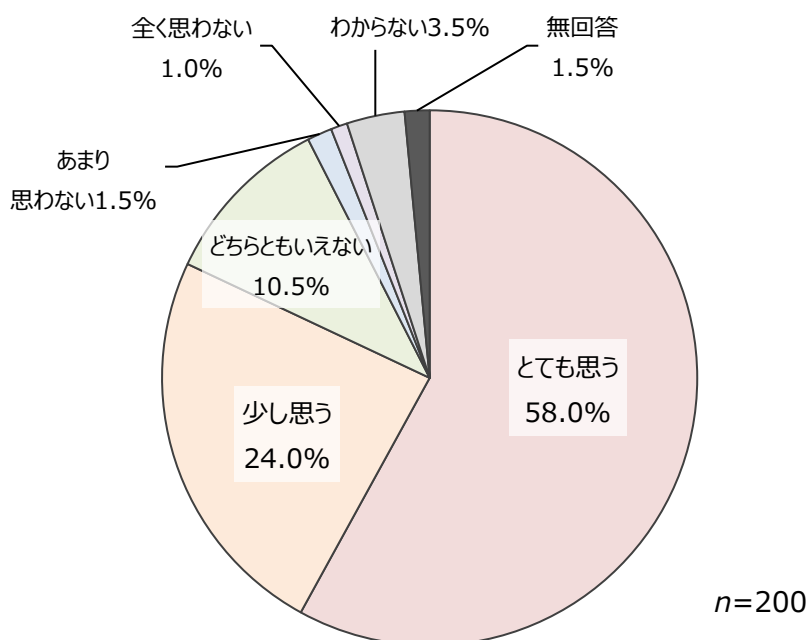
- 最も回答が多かった「わかりやすく勉強を教えてほしい」については、年齢層が上がるにつれて回答割合が高くなる結果となった（小学生：41.5%、中学生：53.4%、高校生：78.8%）。
- 無回答が19名あったほか、「その他」のうち半数以上が「特になし」という内容だった。



n=181

問28 先生は忙しいと思うか

- 「とても思う」と「少し思う」の合計が8割を超えた。年齢層別に「とても思う」と回答した割合をみると、小学生：60.6%、中学生：54.8%、高校生：57.6%と、大きな偏りはなかった。



- 「少しある」が約4割を占めたほか、「たくさんある」と「あまりない」の割合はほぼ同程度だった。
- 年齢層別に「あまりない」または「全くない」と回答した割合をみると、小学生：26.6%、中学生：35.6%、高校生：24.2%と、中学生において割合が高い傾向にあることが分かった。

